

第3章 出火原因別火災状況

1 放 火

- 昭和52年以降、令和元年を除き出火原因の第1位となっています。
- 夜間は全火災件数に占める放火火災の割合が高くなっています。

抽出条件：経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火*」、「921 放火の疑い*」

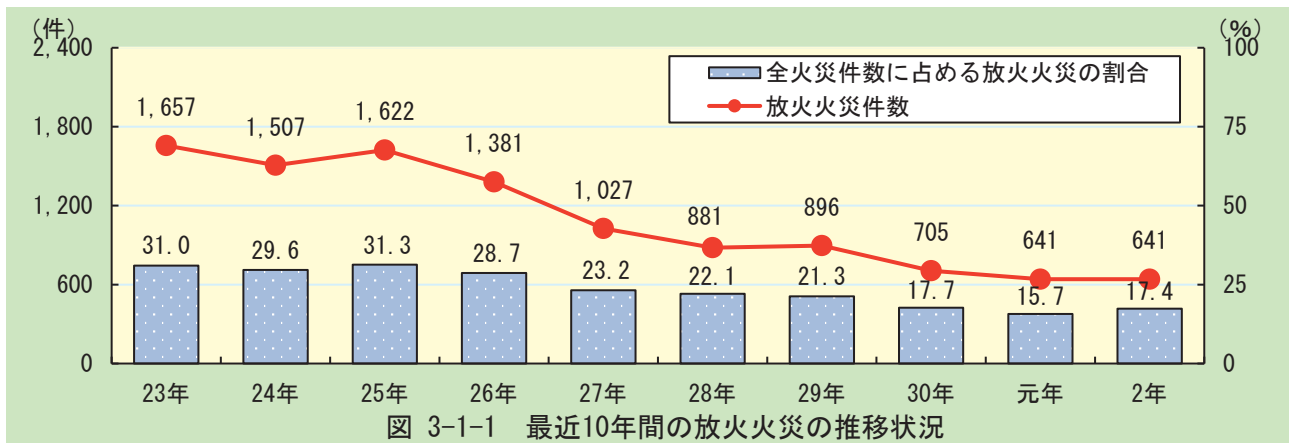
(1) 火災状況

ここでとりあげる「放火」とは、放火の疑い及び無意識放火を含んだ火災をいいます。

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-1-1、最近10年間の火災の推移状況をみたものが図3-1-1です。

表 3-1-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別	火 災 種 別										損 害 状 況				
	合 計	建 物					林 野	車 両	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 (㎡)	焼 損 表 面 積 (㎡)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や									
23年	1,657	632	30	22	99	481	3	75	-	947	5,027	1,580	700,670	25	107
24年	1,507	615	28	6	82	499	1	54	-	837	3,746	1,202	604,385	26	77
25年	1,622	640	30	10	76	524	1	49	-	932	3,709	1,499	633,398	16	82
26年	1,381	510	15	10	77	408	1	62	-	808	3,697	1,585	529,165	19	69
27年	1,027	382	8	8	58	308	1	54	-	590	2,036	1,388	556,067	18	60
28年	881	384	14	14	47	309	-	39	2	456	3,501	732	328,668	24	73
29年	896	351	7	7	49	288	3	31	-	511	1,608	1,003	275,259	14	57
30年	705	276	7	3	46	220	-	17	-	412	1,178	755	171,864	14	60
元年	641	255	14	6	39	196	1	12	-	373	1,937	532	525,967	26	67
2年	641	270	6	8	38	218	-	21	-	350	995	607	380,516	19	58



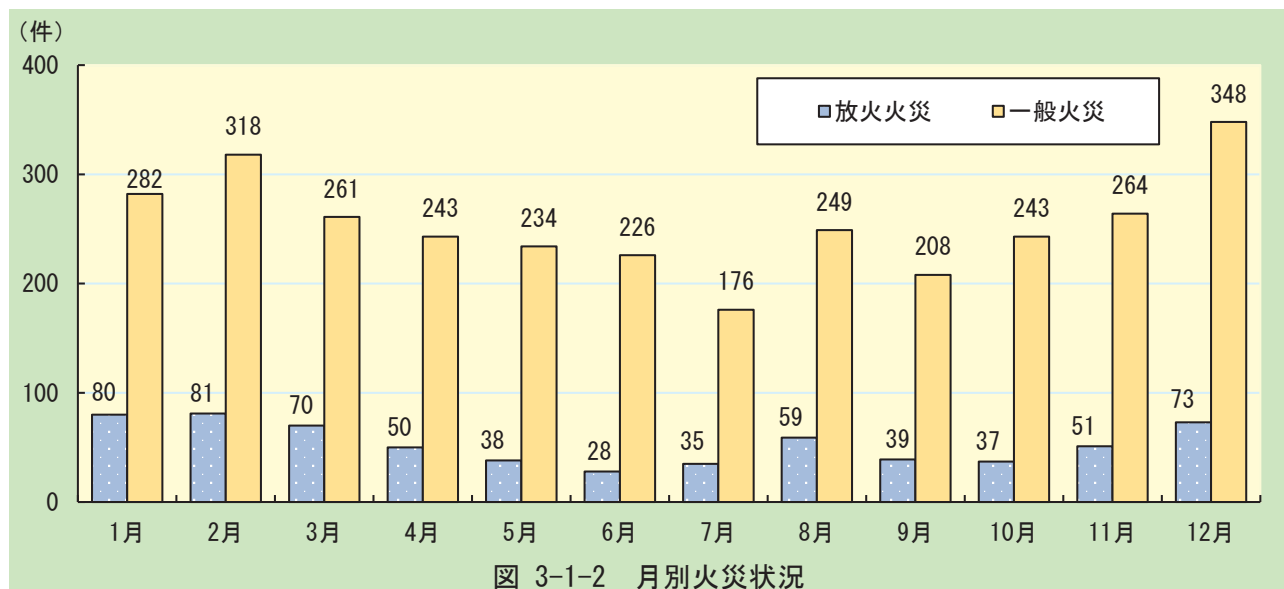
注 全火災件数は治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。以下同じ。

(2) 放火火災の傾向

ア 月別と時間別の発生状況

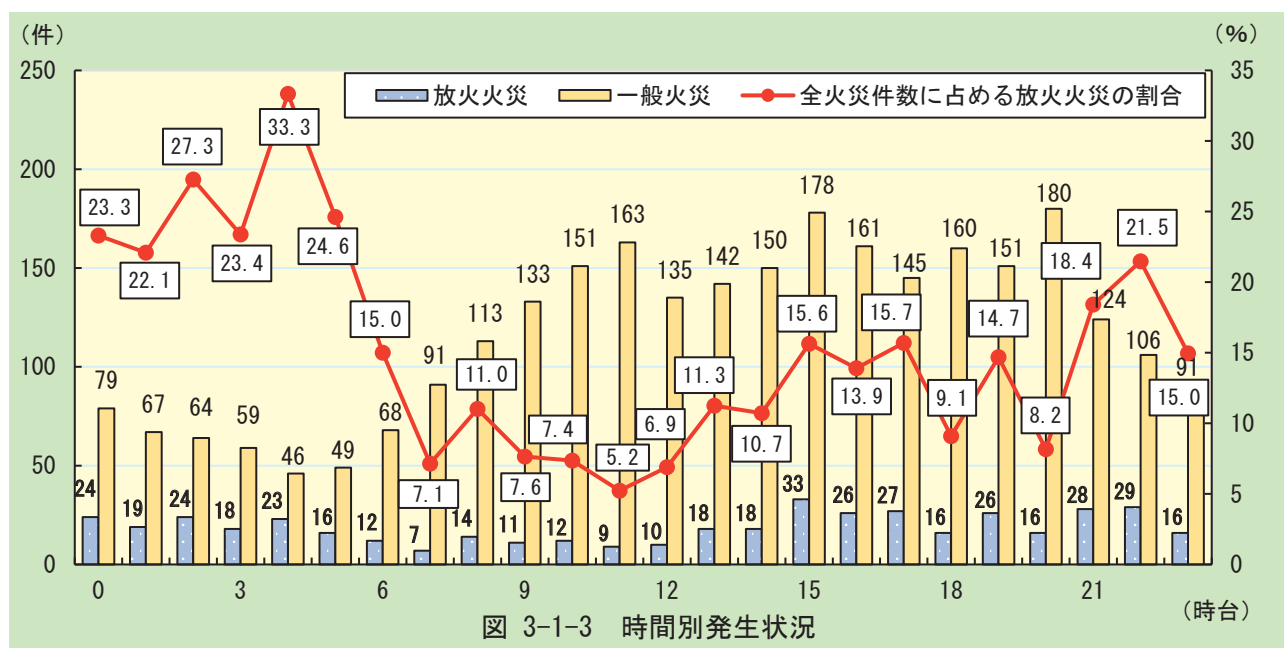
(7) 月別発生状況

放火と放火以外の火災（以下「一般火災」という。）の月別発生状況をみたものが図 3-1-2 です。



(イ) 時間別発生状況

全火災件数のうち出火時間が不明の 435 件を除いた 3,258 件の火災について、放火火災と一般火災の時間別発生状況をみたものが図 3-1-3 です。



- 放火火災は月別では2月に最も多く発生している。
- 一般火災は日中に多いのに対し、放火火災は夕方から深夜の時間帯に多く発生。

イ 放火場所（出火箇所）と着火物

放火された場所（出火箇所）を建物関係（主として建物の箇所）、建物関係以外（主として建物以外の箇所）に分けてその着火物をみたものが表 3-1-2 です。

表 3-1-2 着火物別放火場所（出火箇所）

放 火 場 所 (出 火 箇 所)		合 計	紙 ・ 紙 製 品	ご み く ず	合 成 樹 脂 ・ 合 成 樹 脂 製 品	枯 草 ・ 落 葉 ・ 立 木 ・ 芝 草	織 維 類	く ず 類	木 質 物	車 両 関 係	原 木 ・ 廃 材 等	可 燃 性 固 体 等	家 具 等	建 具	壁 材	そ の 他	不 明
合 計		641	135	100	92	87	79	51	13	11	10	8	7	5	2	6	35
建物関係（主として建物箇所）	小 計	265	81	31	45	-	47	11	4	2	1	1	5	5	2	4	26
	共 用 部 分	114	42	22	24	-	9	5	-	-	-	-	2	2	1	1	6
	居 住 関 係	77	17	3	6	-	29	3	-	-	-	-	3	1	-	2	13
	倉 庫 ・ 物 置	13	7	3	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	建 物 の 外 周 部	12	3	-	4	-	1	1	-	-	-	-	-	2	1	-	-
	車 庫 ・ 駐 車 場	12	2	1	3	-	1	-	-	2	1	1	-	-	-	-	1
	店 舗 ・ 客 室 関 係	9	-	1	4	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	施 設 管 理 ・ 休 憩 室 等	9	3	1	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-
	ベ ラ ン ダ ・ 屋 上 等	6	1	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	事 務 室 等	4	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	空 家 ・ 工 事 中 建 物	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	上 記 以 外	5	3	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
建物関係以外（主として建物以外の箇所）	小 計	376	54	69	47	87	32	40	9	9	9	7	2	-	-	2	9
	車 両	車 両 外 周 部	7	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-
		車 内	6	1	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2
		二 輪 自 動 車	2	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
	そ の 他	敷 地 内	138	17	22	22	21	21	3	3	3	1	1	-	-	-	5
		公 園 ・ 墓 地	72	12	14	5	24	3	9	3	-	1	-	-	-	-	-
		道 路 ・ 地 下 通 路	52	13	16	4	4	7	5	1	-	-	-	-	-	1	1
		河 川 敷	33	2	2	-	21	1	-	2	-	4	-	-	-	1	-
		屋 外 駐 車 場	26	4	4	9	1	2	4	-	2	-	-	-	-	-	-
		空 地	16	-	1	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		屋 外 ご み 捨 場	11	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
		工 作 物 等	8	4	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		上 記 以 外	5	1	-	2	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

- 放火された場所は、建物関係では廊下・玄関ホール・階段などの「共用部分」が多い。
- 着火物別でみると、ダンボール等の「紙・紙製品」が2割以上（21.1%）を占める。

ウ 用途別状況

放火火災のうち、建物から出火した火災 257 件の用途別発生状況をみたものが表 3-1-3 です。

表 3-1-3 火元建物用途別発生状況

火 元 の 用 途 (合 計 2 5 7 件)																
居 住 系			事 業 系										居 住 ・ 事 業 系 以 外			
共同住宅等	住宅	住宅部分の複合用途	事務所	百貨店・物販等	停車場	病院	飲食店	学校	駐車場	倉庫	その他	共用部分	付属建物等	建工事中の物	空家	
108	29	7	30	9	8	4	3	3	2	2	5	35	8	3	1	

(3) 地域別放火火災の発生状況

特別区と受託地区に分けて上位 11 区市をみたものが表 3-1-4 です。放火による出火率とは人口 1 万人当たりの放火件数をいいます。

表 3-1-4 地域別放火火災発生状況

特 別 区	件 数	放 火 に よ る 出 火 率	受 託 地 区	件 数	放 火 に よ る 出 火 率
足 立 区	47	0.7	八 王 子 市	42	0.7
葛 飾 区	43	0.9	町 田 市	28	0.7
江 戸 川 区	40	0.6	立 川 市	16	0.9
北 区	30	0.8	あ き る 野 市	14	0.2
大 田 区	29	0.4	西 東 京 市	11	0.5
板 橋 区	25	0.4	多 摩 市	10	0.7
豊 島 区	24	0.8	小 平 市	9	0.5
世 田 谷 区	23	0.2	府 中 市	8	0.3
港 区	20	0.8	調 布 市	8	0.3
新 宿 区	17	0.5	青 梅 市	8	0.6
練 馬 区	17	0.2	東 久 留 米 市	8	0.7

(4) 連続放火火災の発生状況

表 3-1-5 主な連続放火火災の発生状況

月	管 内	主 な 出 火 場 所	焼 損 物 件	件 数
1 月	八 王 子	(八王子市) 裏高尾	枯草	10
1 月	立 川	(立川市) 柴崎	布、園芸用品等	5
2 月	滝 野 川	(北区) 中里、田端	車両ボディーカバー、ごみ等	6
2 月	金 町	(葛飾区) 金町	玄関インターホン等	6
8 月	石 神 井	(練馬区) 石神井台	自転車カバー等	7
8 月	八 王 子	(八王子市) 南新	車両ワイパー	6

注 本表は、同一日とその翌日までの間で、同一地域に 5 件以上発生した放火火災を集計したものです。

- 放火の対象となった建物用途は、居住系では「共同住宅等」が最も多く発生。
- 特別区では足立区、受託地区では八王子市で放火火災が多く発生。

2 たばこ

- 火災件数は 508 件で、最近 10 年間で最も少ない件数となっています。
- 建物から出火した火災の 7 割以上を居住関係用途が占めています。

抽出条件：発火源分類コード 「42101たばこ」

経過分類コード 「911放火」、「912無意識放火」、「921放火の疑い」、「931火遊び」を除く

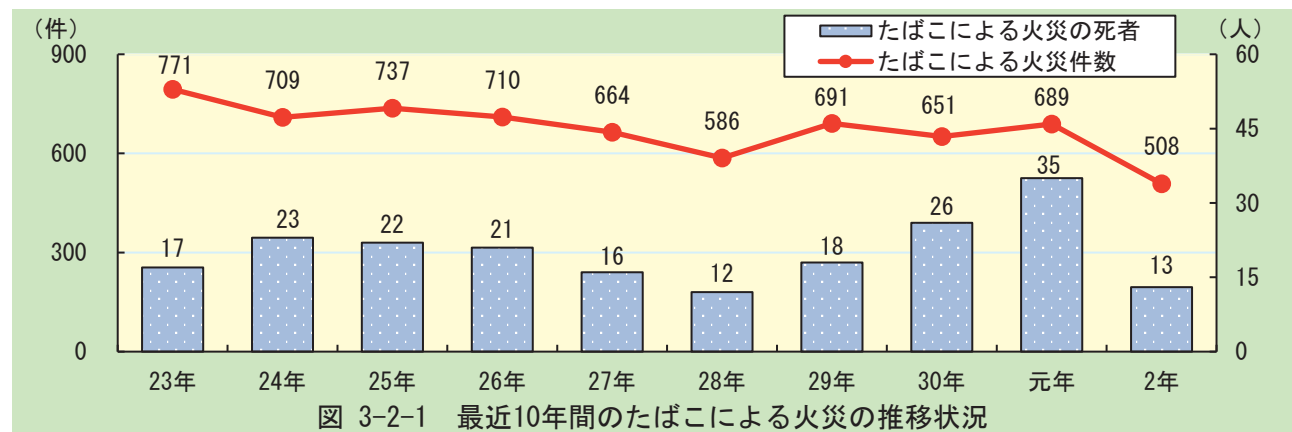
(1) 火災状況

ここでとりあげるたばこによる火災とは、発火源がたばこで、放火及び火遊びによる火災を除いたものです。

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 3-2-1、最近 10 年間の火災の推移状況をみたものが図 3-2-1 です。

表 3-2-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年 別	火 災 種 別 合 計	建 物					種 別				損 害 状 況				
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
23 年	794	461	7	31	120	303	-	14	-	319	3,611	1,466	745,868	17	124
24 年	709	462	5	27	123	307	-	15	-	232	2,992	1,324	585,057	23	104
25 年	737	432	3	18	128	283	-	11	-	294	2,664	1,651	513,123	22	86
26 年	710	415	7	16	111	281	-	20	-	275	2,105	1,158	485,068	21	98
27 年	664	372	6	17	100	249	-	13	-	279	1,913	838	356,287	16	65
28 年	586	354	4	9	88	253	-	17	-	215	1,698	566	328,463	12	92
29 年	691	370	4	11	99	256	-	10	-	311	1,622	1,037	462,962	18	88
30 年	651	366	4	15	104	243	-	13	-	272	2,391	1,188	529,065	26	92
元年	689	374	5	14	101	254	1	19	-	295	1,757	797	536,156	35	77
2 年	508	291	5	10	75	201	-	10	-	207	1,508	717	271,376	13	65



- たばこによる火災件数は、昨年より 181 件減少しているが、最近 10 年間は概ね横ばいで推移。
- たばこによる火災の死者は、平成 28 年から増加していたが昨年と比較すると 22 人減少。

(2) 建物からの発生状況

ア 時間別発生状況

たばこによる火災 508 件のうち、建物から出火した火災は 267 件で、このうち出火時分が不明の 12 件を除いた 255 件について時間別発生状況をみたものが図 3-2-2 です。

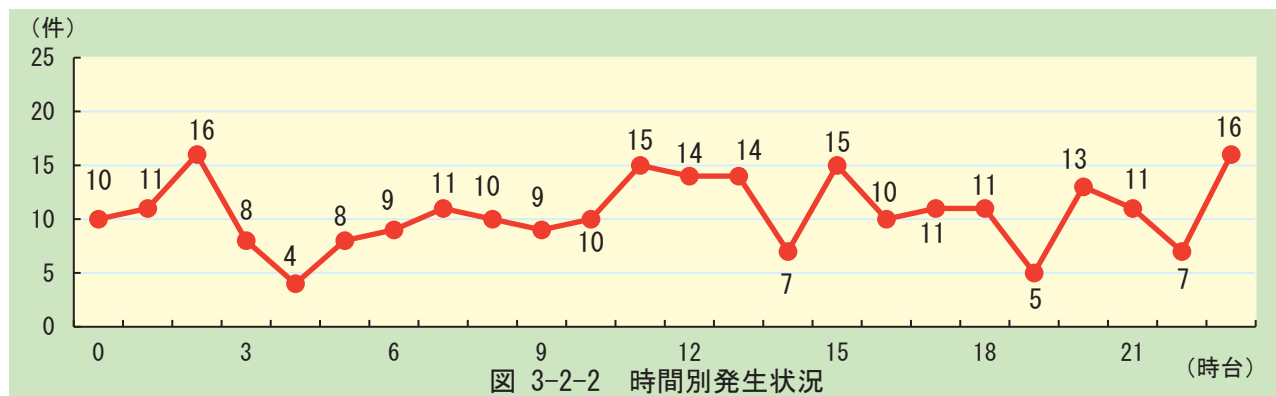


図 3-2-2 時間別発生状況

イ 主な建物用途の出火箇所

建物から出火した火災 267 件について、出火した用途と出火箇所をみたものが表 3-2-2 です。

表 3-2-2 出火した用途別の出火箇所

出火箇所	合 計	建 物 用 途									
		居 住 系	事 業 系								居住・事業系以外
			小 計	物 品 販 売 店 舗 等	飲 食 店	事 業 所 等	ホ テ ル ・ 簡 易 宿 泊 所 等	停 車 場	遊 技 場	そ の 他	
合 計	267	202	43	11	9	9	4	3	1	6	22
居 室	118	116	1	-	-	-	-	-	-	1	1
ベ ラ ン ダ	55	50	4	-	1	2	-	-	-	1	1
キ ッ チ ン 等	25	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-
廊 下 ・ 階 段 等	11	2	3	-	-	1	1	1	-	-	6
店 舗 ・ 客 室 関 係	9	-	9	5	1	-	2	-	1	-	-
玄 関 ・ ホ ー ル 等	9	1	7	3	-	2	1	1	-	-	1
作 業 関 係	8	-	8	-	6	1	-	-	-	1	-
便 所 ・ 浴 室 等	7	6	1	-	-	-	-	-	-	1	-
廃 品 置 場 ・ ご み 捨 て 場	7	-	4	2	-	-	-	1	-	1	3
事 務 室 等	4	-	4	-	1	3	-	-	-	-	-
倉 庫 ・ 物 置 ・ 駐 車 場	4	-	1	1	-	-	-	-	-	-	3
建 物 の 外 周 部	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2
機 械 室 関 係	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
車 庫	2	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1
屋 根 裏	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
工 事 中 建 物	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

注 事務所等は、15 項のうち事務所、官公署、銀行の合計です。

ウ 経過別出火箇所

建物から出火した火災で経過別に出火箇所をみたものが表 3-2-3 です。

表 3-2-3 経過別出火箇所の状況

経過	合計	出火箇所															
		居室	ベランダ	キッチン等	廊下・階段等	店舗・客室関係	玄関・ホール等	作業関係	便所・浴室等	廃品置場・ごみ捨て場	事務室等	倉庫・物置・駐車場	建物の外周部	機械室関係	車庫	屋根裏	工事中建物
合計	267	118	55	25	11	9	9	8	7	7	4	4	3	3	2	1	1
不適当な処に捨てる	176	53	42	20	9	5	9	8	5	7	4	4	3	3	2	1	1
火源が落下する	90	64	13	5	2	4	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
火源が接触する	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

エ 経過別の喫煙時の状況

建物から出火した火災 267 件のうち、喫煙時の状況が不明の 63 件を除いた 204 件について経過別に喫煙時の状況をみたものが表 3-2-4 です。

表 3-2-4 経過別の喫煙時の状況

経過	合計	喫煙時の状況														
		外	休	就	起	飲	作	出	会	帰	観	遊	飲	家事 （調理・炊事を除く） 従事中	調理中（炊事中）	その他
		出	憩	寝	床	酒	業中・執務中	勤	議中・談話中	宅準備中	覧中・鑑賞中	戯	食			
		時	中	時	時	中		時	中	中	中	中	中			
合計	204	42	40	30	16	12	9	9	3	3	2	1	1	1	1	34
不適当な処に捨てる	132	34	26	14	7	6	8	8	2	3	-	1	1	-	-	22
火源が落下する	71	8	13	16	9	6	1	1	1	-	2	-	-	1	1	12
火源が接触する	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

- 経過別出火箇所の状況では「不適当な処に捨てる」が 176 件（65.9%）と、全体の 6 割以上を占め、その多くは居室及びベランダで発生。
- 喫煙時の状況をみると、「外出時」が 42 件（20.6%）で最も多く、2 割以上を占める。

オ 出火に至った時間

建物から出火した火災 267 件のうち、出火に至った時間が不明の 90 件を除いた 177 件について時間経過別に着火物をみたものが表 3-2-5 です。

表 3-2-5 出火に至った時間経過と着火物

出火に至るまでの時間	合 計	着 火 物								
		ご み く ず	織 維 類	紙 ・ 紙 製 品	合 成 樹 脂 製 品	合 成 樹 脂 ・	家 具 類	く ず 類	床 材	枯 草
合 計	177	99	45	16	5	4	3	3	1	1
1 時 間 未 満	116	65	25	12	4	4	2	2	1	1
1 時 間 以 上 2 時 間 未 満	29	20	6	1	1	-	1	-	-	-
2 時 間 以 上 3 時 間 未 満	15	8	4	2	-	-	-	1	-	-
3 時 間 以 上 4 時 間 未 満	7	3	4	-	-	-	-	-	-	-
4 時 間 以 上 5 時 間 未 満	4	1	2	1	-	-	-	-	-	-
5 時 間 以 上 6 時 間 未 満	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-
6 時 間 以 上	4	1	3	-	-	-	-	-	-	-

○ 1 時間未満が 6 割以上（65.5%）を占め、そのうち着火物は「ごみくず」が最も多い。

カ 行為者の状況

(7) 行為者の男女別・年齢

たばこによる火災件数と国民の喫煙率の推移をみたものが図 3-2-3 です。

建物から出火した火災 267 件のうち、行為者の男女別及び年齢が判明している火災 215 件の状況をみたものが図 3-2-4 です。

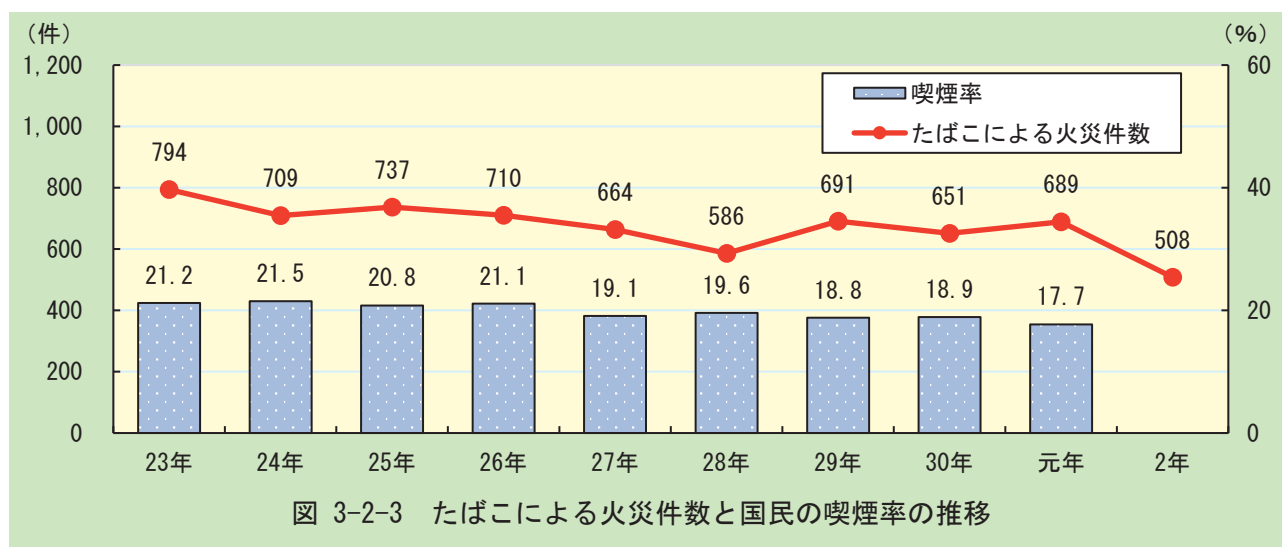
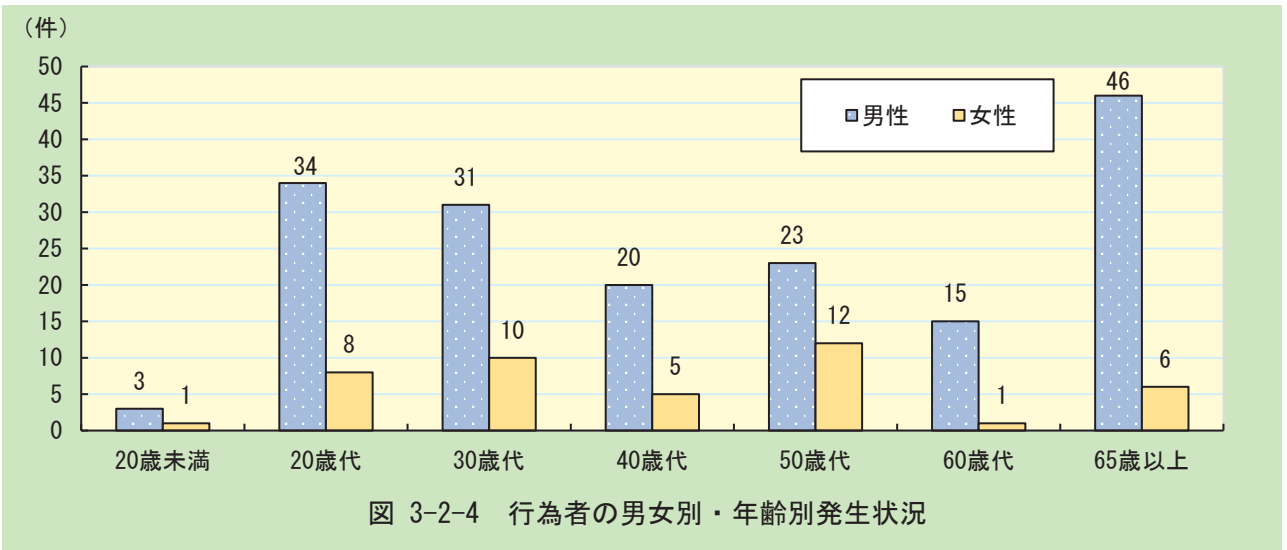


図 3-2-3 たばこによる火災件数と国民の喫煙率の推移

注 喫煙率は厚生労働省国民健康調査より引用（令和2年は未公表）



- 喫煙率は減少傾向にあるものの、火災件数はここ数年増減を繰り返している。
- 行為者の男女別では男性が 172 件（80.0%）で 8 割を占める。

(イ) 寝たばこによる状況

「寝たばこ」は、「就寝前若しくは起床時などに寝具類の中または上で喫煙し、たばこにより寝具類に着火して出火した火災」を示しています。

寝たばこの年齢区分別行為時の状況をみたものが表 3-2-6 です。

表 3-2-6 寝たばこの年齢区分別行為時の状態

年 齢 区 分 別	合 計	行 為 時 の 状 態			死 者	負 傷 者
		飲 酒	正 常	不 明		
合 計	16	10	3	3	1	6
2 0 歳 未 満	-	-	-	-	-	-
2 0 歳 代	-	-	-	-	-	-
3 0 歳 代	2	1	-	1	-	2
4 0 歳 代	1	-	1	-	-	-
5 0 歳 代	3	2	1	-	-	2
6 0 歳 代	2	2	-	-	-	-
6 5 歳 以 上	8	5	1	2	1	2

- 寝たばこによる火災は、年齢区分別では「65 歳以上」が 8 件（50.0%）で半数を占め、そのうち 5 件（62.5%）が飲酒状態。

(3) 建物以外の発生状況

建物以外から出火した火災 241 件について出火箇所別に着火物をみたものが表 3-2-7 です。

表 3-2-7 出火箇所別の着火物（建物以外）

出 火 箇 所			合 計	着 火 物								
				ごみくず	立木・芝草	枯草・落葉・	木質物	繊維類	紙・紙製品	木切れ・廃材	くず類	樹脂製品
合 計			241	105	58	25	18	15	8	6	4	2
道 路 ・ 公 園 等	小 計		123	47	44	10	9	6	2	3	1	1
	道 路（側溝を含む）		83	38	27	2	6	6	-	3	1	-
	公 園		21	4	6	7	3	-	1	-	-	-
	河 川 敷		5	2	3	-	-	-	-	-	-	-
	軌 道 敷		4	-	3	1	-	-	-	-	-	-
	空 地		4	-	3	-	-	-	-	-	-	1
	マ ン ホ ー ル		3	3	-	-	-	-	-	-	-	-
	田 畑		2	-	1	-	-	-	1	-	-	-
	高 速 道 路		1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
固 有 地（物）	小 計		103	47	14	14	6	9	6	3	3	1
	敷 地 内		85	38	12	12	5	8	4	3	2	1
	ごみ箱・屋外ごみ捨て場		11	8	-	-	1	1	1	-	-	-
	屋 外 駐 車 場		5	-	2	2	-	-	-	-	1	-
	屋 外 物 品 置 場		2	1	-	-	-	-	1	-	-	-
車 両	小 計		9	6	-	-	3	-	-	-	-	-
	運 転 席		2	1	-	-	1	-	-	-	-	-
	助 手 席		2	1	-	-	1	-	-	-	-	-
	客 席		2	1	-	-	1	-	-	-	-	-
	原 動 機 付 自 転 車		2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	荷 台		1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
部 建 物 分 の	小 計		5	5	-	-	-	-	-	-	-	-
	建 物 の 外 周 部		3	3	-	-	-	-	-	-	-	-
	屋 上		2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
工 作 物（ 塀 ）			1	-	-	1	-	-	-	-	-	-

○ 建物以外から出火した火災は「道路・公園等」が 123 件（51.0%）で半数以上を占める。

○ 着火物は「ごみくず」が 105 件（43.6%）で最も多く 4 割以上を占める。

3 火遊び

○ 火災件数は20件で、最近10年間では最も少ない発生となっています。

抽出条件：経過分類コード 「931火遊び」

(1) 火災状況

ここでとりあげる「火遊び」とは、行為者が14歳未満の者で、遊びを目的として出火させた火災をいいます。

なお、玩具用花火で遊戯中に火出したものは、含んでいません。

ア 年別火災状況

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-3-1です。

表3-3-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別	火災の種類別									焼 損 床 面 積 (㎡)	焼 損 表 面 積 (㎡)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
	合 計	建物					車 両	林 野	そ の 他					
		小 計	全 焼	半 焼	部分 焼	ぼ や								
23 年	109	42	－	2	10	30	1	－	66	246	82	51,075	－	22
24 年	98	34	1	1	3	29	1	－	63	152	12	7,132	2	12
25 年	74	25	－	2	4	19	－	－	49	205	89	55,238	－	10
26 年	76	20	－	－	2	18	3	－	53	34	9	7,413	－	1
27 年	72	26	－	2	5	19	－	2	44	120	18	30,700	－	4
28 年	33	14	－	－	2	12	－	－	19	20	12	3,048	－	1
29 年	49	19	－	－	5	14	－	－	30	15	5	2,707	－	3
30 年	31	12	－	－	1	11	－	－	19	10	－	1,593	－	2
元年	21	11	－	－	3	8	－	－	10	16	3	3,610	－	－
2 年	20	11	－	－	3	8	－	－	9	64	45	10,032	－	1

イ 月別・時間別の発生状況

月別の火災状況についてみたものが図3-3-1、時間別の火災状況（出火時間不明3件除く。）についてみたものが図3-3-2です。

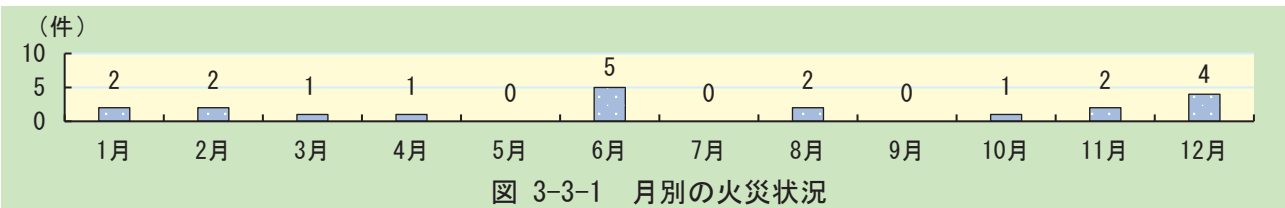


図3-3-1 月別の火災状況

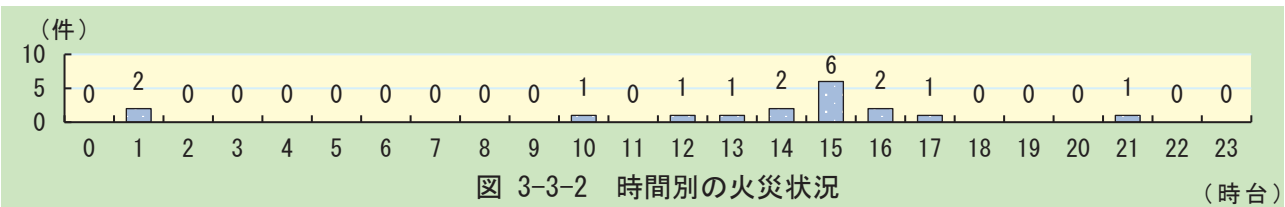


図3-3-2 時間別の火災状況

(時台)

- 月別では、6月が5件（25.0%）で最も多く、次いで12月が4件（20.0%）発生。
- 時間別では、15時台が6件（35.3%）と最も多く、12時台から17時台にかけて火災が多発。

(2) 出火箇所

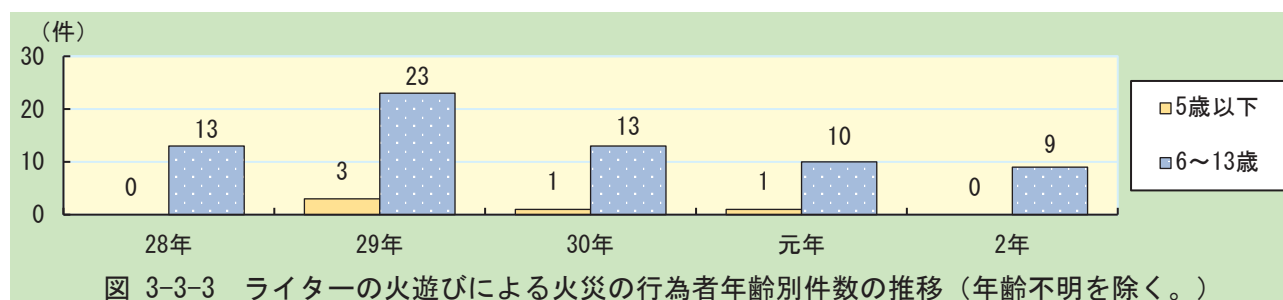
発火源別に出火箇所をみたものが表 3-3-2 です。

表 3-3-2 発火源別出火箇所

発火源	合 計	出火箇所											
		建物関係 (主として建物の箇所)							建物関係以外 (主として建物以外の箇所)				
		居室	廊下	車庫	キッチン	リビング	空家	ベランダ	玄関	敷地内	道路	公園	空地
合計	20	3	3	1	1	1	1	1	1	5	2	1	1
ライター	10	2	3	-	-	-	1	-	1	2	-	1	-
マッチ	6	-	-	1	-	-	-	1	-	1	2	-	1
ロウソク	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
簡易型ガスこんろ	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-

ライターの火遊びによる火災の発生状況

最近5年間のライターの火遊びによる火災の行為者年齢別をみたものが図 3-3-3 です。



- 発火源別では、ライターが10件（50.0%）で最多。
- ライターの火遊びは減少傾向で、最近5年間では最少。

(3) 子供に対するライターの安全対策

消費生活用製品安全法施行令の一部改正により、平成23年9月27日以降、使い捨てライター等は、幼児の誤使用を防ぐチャイルドレジスタンス機構（CR）を備えないライターや幼児が興味を引くようなおもちゃ型のライター（ノベルティライター）は販売できなくなりました。技術基準に適合しているライターについてはPSCマークの表示が義務付けられています。

4 ライター

- 火災件数、焼損床面積、焼損表面積、損害額がいずれも前年より減少しています。
- ライターによる火災の8割以上を建物火災が占めています。

抽出条件：①発火源分類コード 「42301ライター」
②経過分類コード 「911放火」、「912無意識放火」、「921放火の疑い」、「931火遊び」を除く。

(1) 火災状況

ここでとりあげるライターによる火災とは、発火源がライターで、放火及び火遊びによる火災を除いたものをいいます。

ア 年別火災状況

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-4-1です。

表3-4-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別	火 災 種 別									損 害 状 況				
	合 計	建 物					林 野	車 両	そ の 他	焼 損 床 面 積 (㎡)	焼 損 表 面 積 (㎡)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や								
23年	65	40	1	2	6	31	-	21	4	311	128	114,122	-	38
24年	41	29	-	-	4	25	-	10	2	17	14	3,156	1	21
25年	47	27	-	3	1	23	-	16	4	178	87	32,234	1	20
26年	46	32	1	1	4	26	1	9	4	673	68	178,153	2	34
27年	33	18	-	-	2	16	-	11	4	77	20	23,320	1	11
28年	40	27	-	1	2	24	-	11	2	60	7	19,017	-	32
29年	28	21	-	1	2	18	-	5	2	34	21	5,968	-	15
30年	25	19	-	-	2	17	-	4	2	6	8	6,252	1	16
元年	29	19	-	1	3	15	-	7	3	91	24	59,481	-	14
2年	22	18	-	-	3	15	-	4	-	26	21	13,419	-	13

イ 月別火災状況

ライターによる火災を月別にみたものが図3-4-1です。

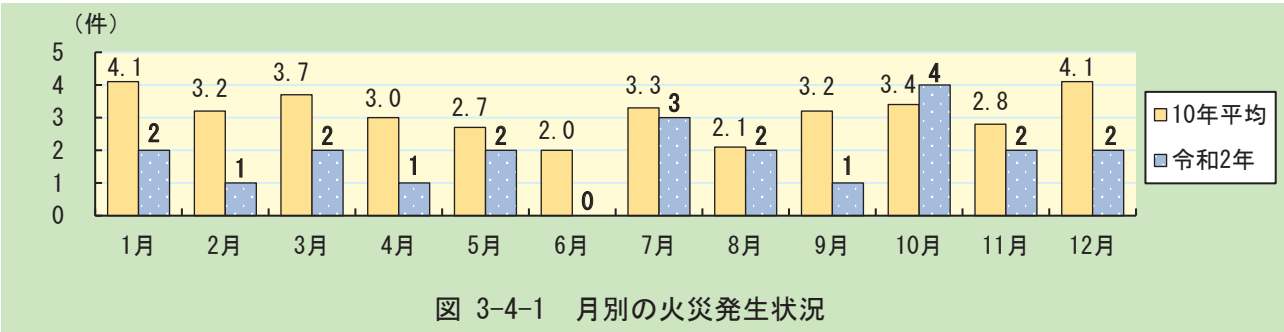


図 3-4-1 月別の火災発生状況

- 10月が4件（18.2％）で最も多く発生。
- 最近10年間の月別平均件数では、1月及び12月が4.1件と最多。

(2) 経過別出火箇所区分

ライターによる火災の状況を経過別出火箇所区分で見たものが表 3-4-2 です。

表 3-4-2 経過別出火箇所区分の状況

出火箇所区分		合計	経過別					
			が誤って入スイッチする	引火する	火源が接触する	接炎する	の本来の用途以外	不明
合計		22	6	5	5	3	2	1
建物	小計	18	3	5	4	3	2	1
	建物（自宅）	13	2	2	4	3	2	-
	建物（事業用）	2	-	1	-	-	-	1
	建物（その他）	3	1	2	-	-	-	-
建物以外	車両からの出火	4	3	-	1	-	-	-

- ライターによる火災は建物で18件（81.8％）発生。そのうち、自宅から出火しているのは13件（72.2％）で7割以上を占める。
- 経過別では、「誤ってスイッチが入る」が6件（27.3％）で3割近くを占める。次いで「引火する」及び「火源が接触する」が各5件。
- 「誤ってスイッチが入る」の半数は車両からの出火。

5 ロウソク

○ 火災件数が 31 件で前年と比べて 11 件減少しました。

抽出条件:①発火源分類コード 「41701ロウソク」、「41702灯明」、「41703ちょうちん」、「41704灯ろう」、「41705走馬灯」
②経過分類コード 「911放火」、「912無意識放火」、「921放火の疑い」、「931火遊び」を除く。

火災状況

ここでとりあげる「ロウソク」とは、アロマテラピーや照明で使う「ロウソク」や宗教等のために用いる「灯明*」などをまとめた火災をいいます。

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 3-5-1、ロウソクによる火災の経過をみたものが図 3-5-1、ロウソクの使用目的をみたものが図 3-5-2 です。

表 3-5-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年 別	火 災 種 別										損 害 状 況				
	合 計	建 物					車	船	林	そ の 他	焼 損 床 面 積 (㎡)	焼 損 表 面 積 (㎡)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	両 車	船 舶	野 野						
23 年	55	53	2	3	21	27	-	-	-	2	444	272	87,259	6	26
24 年	58	56	3	2	16	35	-	-	-	2	545	67	66,076	2	32
25 年	52	52	3	4	12	33	-	-	-	-	577	186	117,857	2	30
26 年	56	56	1	1	15	39	-	-	-	-	210	214	44,925	-	21
27 年	40	40	-	1	12	27	-	-	-	-	137	128	57,794	-	18
28 年	48	47	2	3	11	31	-	-	-	1	473	180	85,770	1	24
29 年	46	46	2	4	10	30	-	-	-	-	422	160	64,061	-	25
30 年	41	40	2	3	11	24	-	-	-	1	911	98	135,331	4	15
元年	42	41	3	2	12	24	-	-	-	1	611	149	58,296	2	17
2 年	31	31	1	2	10	18	-	-	-	-	406	179	89,762	-	18

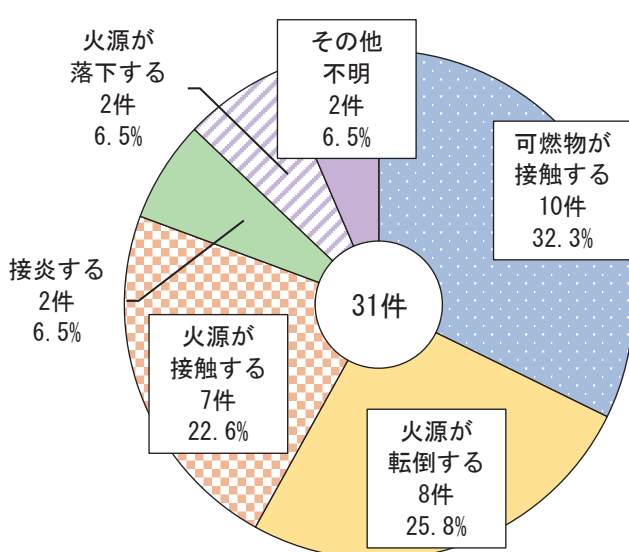


図 3-5-1 ロウソクによる火災の経過

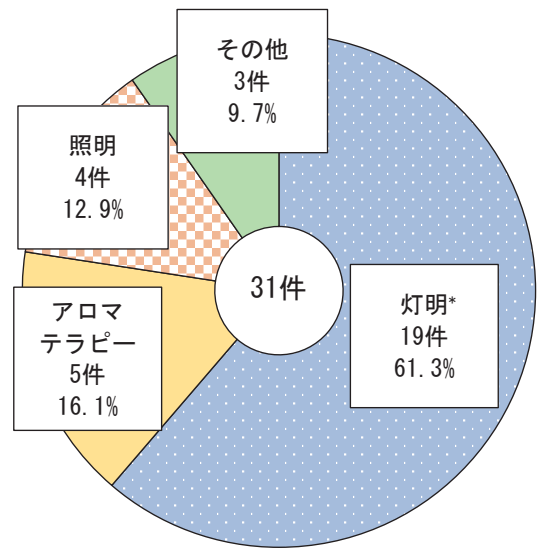


図 3-5-2 ロウソクの使用目的

○ 火災の経過をみると、ロウソクに可燃物が接触して出火したものが 10 件と最多。

6 電気設備機器

- 全火災件数に占める電気設備機器火災の割合が、最近 10 年で最も高い 31.5%でした。
- 政令用途対象物の火災の割合が、増加傾向で推移しています。

抽出条件：①発火源分類コード 大分類コード「1電気を使用する道具・装置」
②経過分類コード「911放火」、「912無意識放火」、「921放火の疑い」、「931火遊び」を除く。
③車両から出火した火災の区分コード「0非該当」

(1) 火災状況

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが、表 3-6-1 です。

表 3-6-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年 別	全 火 災 件 数	火電 気 災 設 備 機 器 火 災 件 数	全火災に対する割合 (%)	火災の種類					別				損害状況				
				建物					航 空 機	車 両	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 (㎡)	焼 損 表 面 積 (㎡)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
				小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や									
23 年	5,340	1,051	19.7	933	18	26	139	750	-	-	1	117	4,774	2,345	931,142	12	172
24 年	5,088	1,109	21.8	992	19	35	119	819	1	-	-	116	5,506	1,589	1,353,856	18	159
25 年	5,190	1,111	21.4	984	20	28	129	807	-	-	-	127	7,221	3,570	2,052,525	21	155
26 年	4,804	1,020	21.2	901	27	23	119	732	-	1	2	116	6,502	1,971	1,354,817	23	189
27 年	4,430	1,047	23.6	909	21	21	104	763	-	-	2	136	5,685	1,913	970,983	18	178
28 年	3,980	1,052	26.4	924	11	18	108	787	-	1	-	127	3,526	1,856	931,198	11	192
29 年	4,204	1,152	27.4	1,019	22	17	118	862	-	-	-	133	4,447	1,819	1,208,237	13	171
30 年	3,972	1,205	30.3	1,043	14	28	113	888	-	-	-	162	3,933	1,549	1,051,712	11	164
元年	4,085	1,283	31.4	1,143	15	21	103	1,004	-	-	-	140	5,173	1,663	4,197,587	13	159
2 年	3,693	1,163	31.5	1,057	13	15	102	927	-	-	-	106	2,767	1,646	917,825	14	159

注 全火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

- 令和 2 年中の電気設備機器火災件数は 1,163 件で、前年と比べて 120 件減少。
- 火災種別では建物火災件数が 1,057 件で、前年と比べて 86 件減少。
- 電気設備機器火災の焼損床面積及び損害額が最近 10 年間で最も少ない。

表 3-6-2 電気設備機器による発火源と経過（その1）

発火源	合 計	不 明																									
		電線が短絡する	金属の接触部が過熱する	トラッキングする	過熱する	地絡する	絶縁劣化により発熱する	可燃物が接触する	過剰の電流（含電圧）が流れる	半断線により発熱する	考え違いにより使用を誤る	放置する・忘れる	スパークする	放射を受けて発火する	誤ってスイッチが入る（入れる）	可燃物を置く	火花が飛ぶ	可燃物が落下する	構造が不完全である	引火する	火源が接触する	機械が故障を起こす	誤結線の	その他	不明		
合 計	1,163	309	194	95	65	65	58	58	56	35	30	23	17	15	15	12	11	10	10	7	7	5	4	19	43		
電熱器	小 計	183	13	14	4	23	2	1	36	-	12	6	9	1	9	11	3	9	9	2	2	5	4	-	2	6	
	電 気 ス ト ー ブ	48	-	-	-	-	-	-	29	-	1	-	-	-	6	-	-	-	4	-	2	-	-	-	1	5	
	電気クッキングヒータ*	22	1	-	-	2	-	-	1	-	-	2	6	-	-	6	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	
	電 気 ト ー ス タ	17	-	-	-	11	-	-	1	-	-	1	1	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
	ヘ ア ド ラ イ ヤ	13	4	1	-	1	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	電 気 溶 接 器	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	
	電 気 こ ん ろ	7	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
	電 気 ア イ ロ ン	6	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	
	投 込 湯 沸 器	6	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	
	電 気 オ ー ブ ン	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
	電 気 ポ ッ ト	4	1	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	温 風 機	4	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	そ の 他 の 電 熱 器	43	6	10	3	7	1	1	1	-	3	2	1	1	2	1	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	
電気機器	小 計	494	177	30	30	40	11	40	22	20	14	22	14	8	6	4	9	2	1	7	5	2	1	1	11	17	
	充 電 式 電 池	63	55	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	
	電 子 レ ン ジ	51	-	1	1	29	-	1	1	-	2	8	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	3	-	
	蛍 光 灯	39	16	1	1	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
	電 磁 調 理 器 *	23	-	-	-	5	-	1	-	2	-	1	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	直流電源装置（ACアダプタ含む）	23	12	-	3	1	2	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
	L E D	20	6	3	4	-	-	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	
	冷 暖 房 機	18	2	8	1	-	1	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	
	携 帯 電 話 機	18	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	コンピュータ（本体）	14	10	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	
	掃 除 機	14	4	2	2	-	-	-	-	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	
	カ ー ボ ン ヒ ー タ	13	1	-	-	-	-	-	5	-	2	-	-	-	2	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	食 器 洗 器	9	-	4	1	1	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	ジ ュ ー サ	9	3	-	-	1	3	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	白 熱 電 球	8	1	-	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
	換 気 扇	7	3	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	ペンダントライト	7	1	-	1	-	-	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ダ ウ ン ラ イ ト	6	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	電 気 冷 蔵 庫	5	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
	冷 凍 庫	5	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	ハロゲンヒータ（暖房器具）	4	-	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	蓄 電 池	4	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
	冷蔵ショーケース	4	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
	器具外付け安定器	4	1	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ネットワーク関係（ルータ等）	4	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	シーリングライト	4	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ク リ ッ プ ラ イ ト	4	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
	ブ ラ ケ ッ ト	4	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	そ の 他 の 電 気 機 器	110	36	8	8	3	3	6	5	6	5	5	-	2	1	1	3	2	-	1	4	-	-	-	7	-	

表 3-6-2 電気設備機器による発火源と経過（その2）

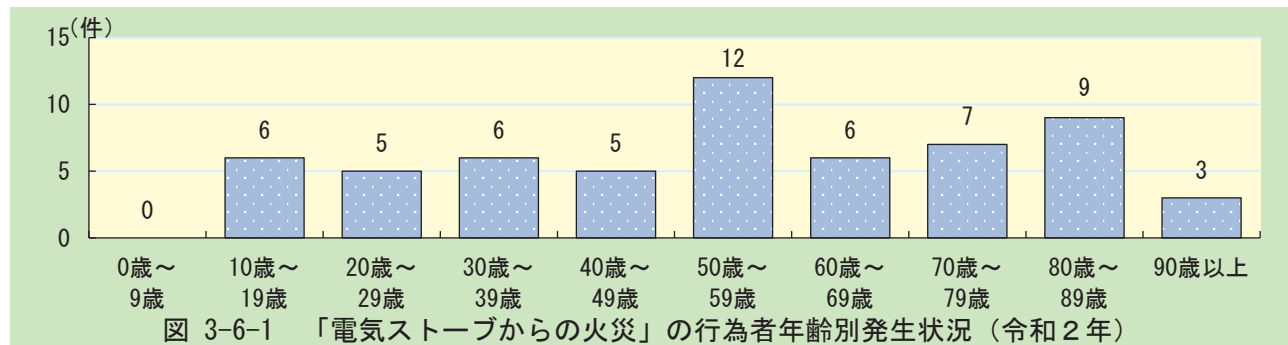
発火源		合計	電線が短絡する	金属の接触部が過熱する	トラッキングする	過熱する	地絡する	絶縁劣化により発熱する	可燃物が接触する	過多の電流（含電圧）が流れる	半断線により発熱する	考え違いにより使用を誤る	放置する・忘れる	放射を受けて発火する	誤ってスイッチが入る（入れる）	可燃物を置く	火花が飛ぶ	可燃物が落下する	構造が不完全である	引火する	火源が接触する	機械が故障を起こす	誤結線する	その他	不明
電気装置	小計	77	22	10	10	2	4	13	-	10	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	2
	制御盤	16	3	2	5	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	分電盤	13	4	4	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	コンデンサ（低圧）*	13	1	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	三相モータ	10	6	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	トランス	7	5	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	配電用変圧器	5	-	1	-	-	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	コンデンサリアクトル	4	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	その他の電気装置	9	3	1	2	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小計	204	55	56	10	-	43	2	-	11	7	1	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	9
配線	コード	60	31	3	1	-	5	-	-	7	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	3
	屋内線*	28	11	6	1	-	5	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	配電線（高圧）	20	2	2	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	漏電遮断器	19	1	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	配線用遮断器	15	-	11	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	引込線（低圧）	7	2	-	-	-	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	電磁開閉器*	5	1	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	屋外線	5	1	1	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	タンブラースイッチ	4	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	街頭スイッチ	4	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	真空遮断器	3	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	変電設備内配線	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	断路器（ジスコン）	3	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	電磁接触器	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	タイムスイッチ	3	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	電流制限器	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	継電器	3	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他の配線等	16	3	2	1	-	6	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
配線器具等	小計	201	42	84	41	-	5	2	-	15	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
	差込みプラグ	62	10	25	14	-	3	-	-	5	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	コンセント	59	10	35	4	-	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
	テーブルタップ	30	6	12	8	-	1	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	マルチタップ*	21	4	9	5	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	コードコネクタ*	14	4	1	8	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	積算電力計	5	2	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	電灯付家具、コンセント付家具	5	4	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他の配線器具等	5	2	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の電気関係		4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-

(2) 主な出火原因

電気設備機器を、発火源別に電熱器、電気機器、電気装置、配線等及び配線器具等に分類したものが表 3-6-2 です。

ア 電熱器

令和 2 年の「電気ストーブからの火災」を行為者の年齢別にみたものが図 3-6-1 です。



注 1 「電気ストーブからの火災」は、電気ストーブ、カーボンヒータ*、ハロゲンヒータ及び温風機の4項目を合わせたものをいいます。

2 行為者年齢が不明の10人を除いています。

- 電熱器関係の火災は 183 件（15.7%）で、前年と比べて 22 件減少。
- 電熱器の中で火災件数が最も多いのは、電気ストーブの 48 件（26.2%）。
- 電気ストーブ（48 件）の経過をみると、布団類などの可燃物が接触する火災が 29 件（60.4%）発生。

イ 電気機器

- 電気機器関係の火災件数は 494 件（42.5%）で、前年と比べて 36 件減少。
- 電気機器関係火災の上位 3 位をみると、充電式電池が 63 件（12.8%）で最も多く、次いで電子レンジが 51 件（10.3%）、蛍光灯が 39 件（7.9%）となっている。
- 充電式電池の経過をみると、「短絡する」が 55 件（87.3%）と最も多い。

ウ 電気装置

- 電気装置関係の火災件数は 77 件（6.6%）で、前年と比べて 12 件増加。
- 電気装置関係の中で最も多いのは、制御盤の 16 件（20.8%）で次いで分電盤の 13 件（16.9%）となっている。
- 制御盤の経過をみると、「トラッキング」が 5 件（31.3%）で 3 割以上を占める。

エ 配線等・配線器具等

- 配線等・配線器具等の火災は合わせて 405 件（34.8%）で、前年と比べて 76 件減少。
- 配線器具等の火災は 201 件発生し、このうち差込みプラグが 62 件（30.8%）、次いでコンセントが 59 件（29.4%）発生。経過の内訳をみると、いずれも「金属の接触部が過熱する」が最も多い。

オ 電気機器の部位別の火災状況

電気機器関係の火災 494 件の主な出火部位をみたものが表 3-6-3 です。

表 3-6-3 主な電気機器の出火部位

発火源	合 計	充 電 部	差 込 み プ ラ グ	電 源 コ ー ド	庫 内 部	安 定 器	器 具 内 配 線	基 板 部	ヒ ー タ 部	コ ン デ ン サ 部	そ の 他 の 電 気 器 具 部 分	そ の 他 ・ 不 明
合 計	494	102	48	45	42	39	31	28	24	16	75	44
充電式電池	63	52	1	1	-	-	1	1	-	-	1	6
電子レンジ	51	-	1	2	42	-	1	-	1	-	-	4
蛍光灯	39	-	1	-	-	31	2	-	-	2	2	1
電磁調理器*	23	-	-	-	-	-	-	1	8	1	11	2
直流電源装置（ACアダプタ含む）	23	1	10	4	-	-	-	5	-	1	2	-
LED	20	3	1	1	-	1	5	3	-	-	6	-
冷暖房機	18	-	1	1	-	-	5	4	-	-	1	6
携帯電話機	18	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コンピュータ（本体）	14	8	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-
掃除機	14	3	4	4	-	-	1	1	-	-	-	1
カーボンヒータ	13	-	-	3	-	-	-	-	10	-	-	-
食器洗器	9	-	5	-	-	-	2	-	1	-	1	-
ジュース	9	-	3	4	-	-	-	1	-	-	-	1
白熱電球	8	-	-	1	-	-	-	-	-	-	7	-
換気扇	7	-	-	1	-	-	1	-	-	1	1	3
ペンダントライト	7	-	-	1	-	2	-	-	-	-	4	-
ダウンライト	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-
その他の電気機器	152	17	17	20	-	5	13	12	4	11	33	20

注 その他の電気器具部分とは、発火源部位の項目に該当していない部分を示す。

(7) 充電部

- 電気機器の充電部から出火した火災は、102 件（20.6%）で、前年と比べて 4 件減少。
- 発火源別にみると、充電式電池の充電部からの火災が 52 件（51.0%）と最も多い。

(イ) 差込みプラグ・電源コード

- 差込みプラグ部分から出火した火災は 48 件（9.7%）発生。
- 電源コード部分から出火した火災は 45 件（9.1%）発生。

(h) 庫内部

- 庫内部から出火した火災は、42 件（8.5％）発生し、このうち電子レンジから出火した火災が 42 件（100.0％）で 10 割を占める。

(i) その他の電気器具部分

- その他の電気器具部分から出火した火災は、75 件（15.2％）発生。
- 発火源の上位 3 位をみると、電磁調理器が 11 件（14.7％）と最も多く発生し、次いで白熱電球が 7 件（9.3％）、LED 及びダウンライトが各 6 件（8.0％）となっている。

カ トラッキング

最近 5 年間のトラッキング現象による火災の年別発生状況をみたものが表 3-6-4 です。

差込みプラグのトラッキング現象による火災は、差し刃間の絶縁物上に湿気を含むちりや埃などが付着した状態で電圧が印加されると、沿面電流が流れ、小規模な放電が発生し、この放電による火花により絶縁物表面に導電性のあるグラファイトが生じて火災に至ります。

表 3-6-4 年別発生状況（最近 5 年間）

年別	電気火災件数	トラッキング火災件数 （電気火災に占める割合％）		差込みプラグ差し刃間の トラッキング火災件数
28 年	1,052	96	(9.1)	28
29 年	1,152	98	(8.5)	34
30 年	1,205	113	(9.4)	34
元年	1,283	108	(8.4)	30
2 年	1,163	95	(8.2)	21

注 差込みプラグの差し刃間のトラッキング火災件数は、「発火源が配線器具の差込みプラグで経過がトラッキング」、「電気設備機器（発火源が配線器具の差込みプラグを除く）のうち経過がトラッキングで発火源部位が差込みプラグ」の合計です。

- トラッキング現象による火災は、95 件（前年比 13 件減少）発生し、電気設備機器火災の 1 割近く占める。
- トラッキング火災件数のうち、差込みプラグ差し刃間で発生した火災件数は 21 件（22.1％）発生。

(3) 火元の用途別火災発生状況

電気設備機器関係の火災を用途別にみたものが表 3-6-5 です。

表 3-6-5 火元用途別火災状況（最近 10 年間）

火元用途区分			23 年	24 年	25 年	26 年	27 年	28 年	29 年	30 年	元年	2 年	前年比
合 計			997	1,051	1,109	1,111	1,020	1,047	1,052	1,152	1,283	1,163	▼ 120
用途	建物	政令用途対象物	398	434	466	511	453	458	488	537	660	563	▼ 97
		(%)	41.3	42.0	46.0	44.4	43.7	46.4	46.6	45.6	51.4	48.4	▼ 3.0
		住宅・共同住宅	493	515	466	447	444	426	479	487	474	485	11
		(%)	46.9	46.4	41.9	43.8	42.4	40.5	41.6	40.4	36.9	41.7	4.8
		その他（建物以外）	124	128	134	120	145	138	136	169	149	111	▼ 38
		(%)	11.8	11.5	12.1	11.8	13.8	13.1	11.8	14.0	11.6	9.5	▼ 2.1

○ 政令用途対象物をみると、令和 2 年は 563 件（48.4%）になり、電気設備機器火災全体の 5 割近くを占める。

(4) 出火要因別発生状況

電気設備機器関係の火災の出火要因をみたものが図 3-6-2 です。

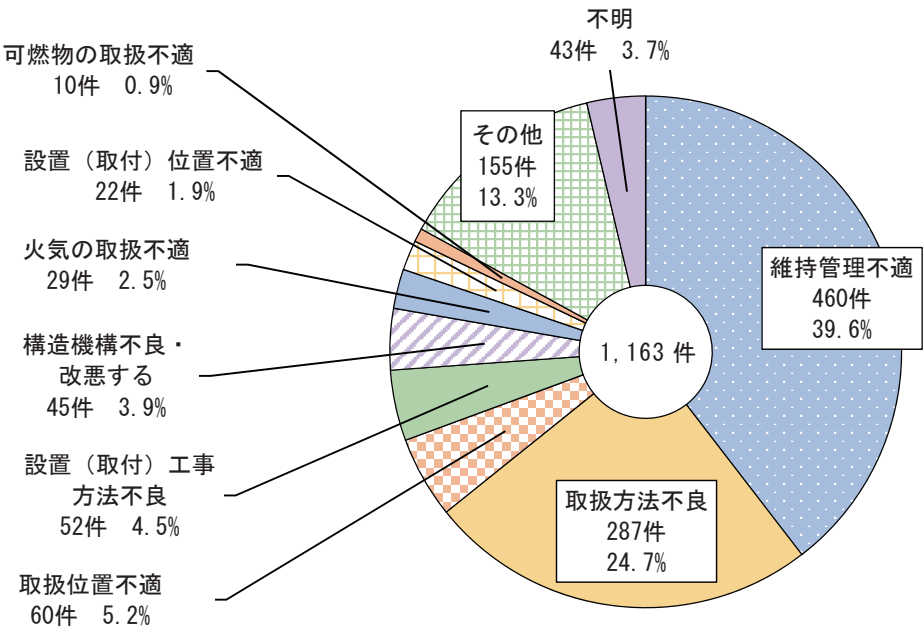


図 3-6-2 出火要因別状況

○ 出火要因別発生状況をみると、「維持管理不適」が 460 件と最も多く、次いで「取扱方法不良」が 287 件で、この 2 項目で 6 割以上を占める。

(5) リチウムイオン電池の火災発生状況

リチウムイオン電池関連の火災状況をみたものが表 3-6-6、製品用途別にみたものが表 3-6-7
です。

表 3-6-6 リチウムイオン電池関連火災状況（最近 5 年間）

年 別	火災発生件数								損害状況			
	合 計	建物					車 両	そ の 他	焼 損 床 面 積 (㎡)	焼 損 表 面 積 (㎡)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や						
28 年	55	48	-	-	6	42	2	5	77	40	-	22
29 年	56	47	-	-	5	42	7	2	32	41	-	4
30 年	82	69	-	1	4	64	6	7	74	40	-	10
元年	102	95	1	1	11	82	2	5	400	257	-	12
2 年	104	93	-	2	11	80	5	6	200	195	-	22
対前年比	2	▼ 2	▼ 1	1	-	▼ 2	3	1	▼ 200	▼ 62	-	10
5 年平均	80	70	-	1	7	62	4	5	157	115	-	14

注 リチウムイオン電池関連火災とは、ごみ回収中のごみ収集車から出火した火災、ごみ処理関連施設（業態が一般廃棄物処理業及び産業廃棄物処理業）から出火した火災を除いています（以下同じ）。

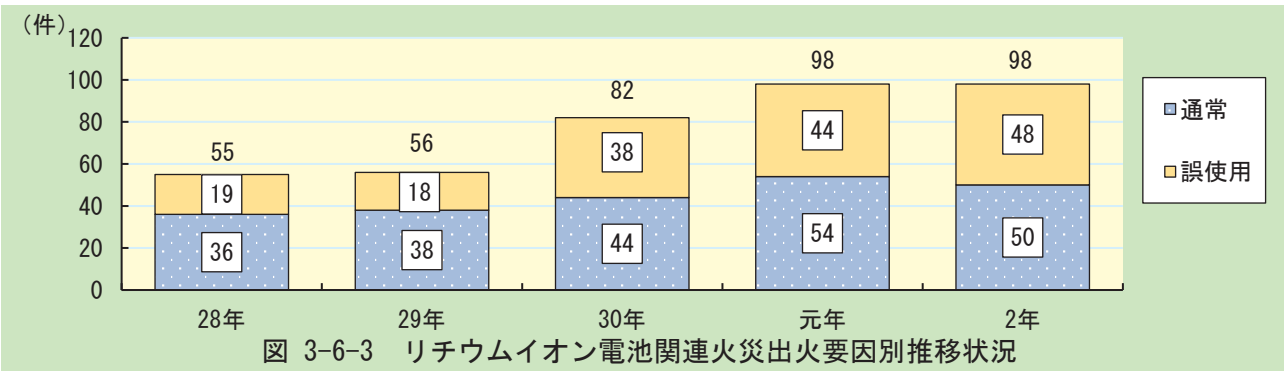
ア 製品用途別の火災状況

表 3-6-7 製品用途別火災状況（最近 5 年間）

年 別	合 計	パ モ ッ バ テ イ リ ル	携 帯 電 話 機	電 動 工 具	玩 具	掃 除 機	パ ノ ソ ー コ ン ト	タ ブ レ ッ ト	L E D ラ イ ト	ボ 電 動 ス ケ ー ド ト	自 動 ア シ ス ト 車	ヘ ッ ド ラ イ ト	プ D V レ ー ・ B ヤ D	携 帯 型 ル ー タ	そ の 他
合 計	399	95	55	14	10	25	38	14	14	3	13	4	6	4	104
28 年	55	15	6	-	-	1	5	-	2	-	4	-	1	-	21
29 年	56	11	8	-	1	4	9	2	1	-	-	-	2	-	18
30 年	82	26	10	4	1	2	6	2	5	-	5	2	-	2	17
元年	102	23	11	3	1	12	12	7	3	-	2	-	1	-	27
2 年	104	20	20	7	7	6	6	3	3	3	2	2	2	2	21

イ 要因別状況

要因を通常使用と誤使用に分け、内訳と推移状況を表したものが図 3-6-3、最近 5 年間で発生した誤使用による火災 167 件の内訳について表したものが図 3-6-4 です。



注 令和 2 年中は、火災件数 104 件のうち「不明」の 6 件を除いています。

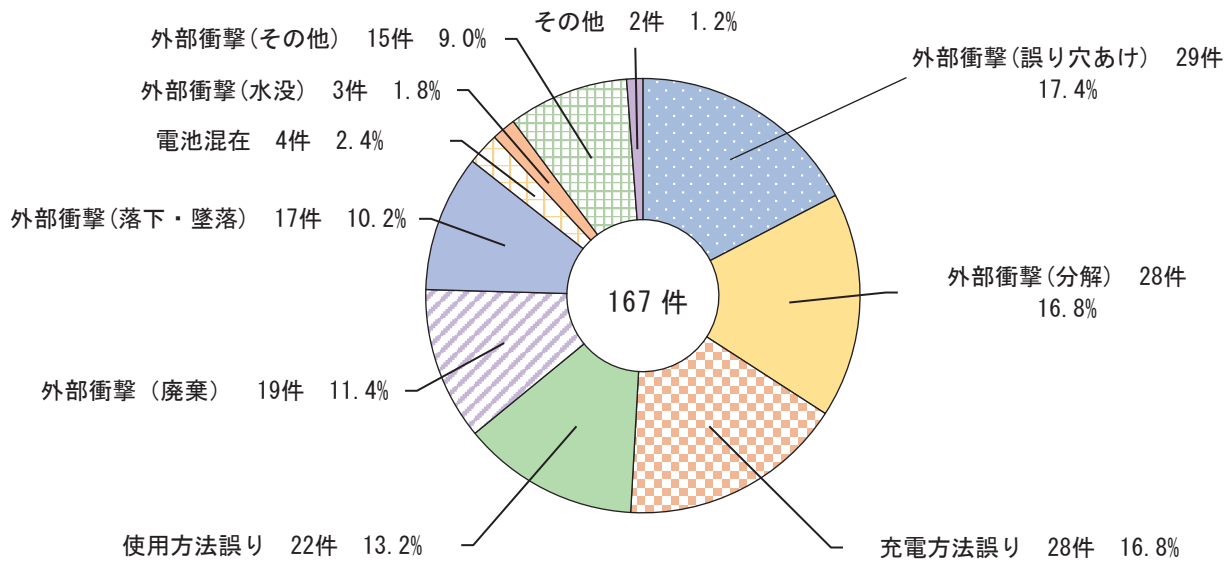


図 3-6-4 誤使用の内訳（最近5年間）

注1 外部衝撃（廃棄）とは、廃棄する際に分別のため分解作業をして出火した火災等になります。

2 使用方法誤りとは、非純正品バッテリーを使用（充電中含む）して出火した火災等になります。

リチウムイオン電池関連の製品からの火災は年々増加しています。そして、多種多様な製品から出火しており、誤った使用方法により出火するのはもちろんのこと、通常的使用方法でも出火する場合があるので注意が必要です。

近年、事故が増加傾向にあることを踏まえ、経済産業省ではモバイルバッテリーを電気用品安全法の規制対象としました。平成31年2月1日以降は、基準等を満たしたもの以外は販売等ができなくなっています。消費者としては、PSEマーク（電気製品が安全性を満たしていることを示すマーク）が付いている製品を購入することが安全への第一歩となります。

○ 誤使用（167件）の内訳をみると、「外部衝撃（誤り穴あけ）」が29件（17.4%）で最も多く、次いで「外部衝撃（分解）」及び電圧の異なる充電器を使用などの「充電方法誤り」が各28件（16.8%）発生。

7 ガス設備機器

- ガス設備機器の火災における厨房関連設備機器の火災は96.3%を占めています。
- 全火災に対する割合が、令和2年では15.5%で前年と比べて1.3ポイント増加しました。

抽出条件：①発火源分類コード 中分類コード「21都市ガス」、「22プロパンガス」
②経過分類コード 「911放火」、「912無意識放火」、「921放火の疑い」、「931火遊び」を除く。
③車両から出火した火災の区分コード 「0非該当」

(1) 火災状況

ここでとりあげる「ガス設備機器」の火災とは、都市ガス及びプロパンガスを燃料とする設備機器が発火源となった火災をいいます。

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-7-1です。

表3-7-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別	全 火 災 件 数	火 ガ ス 火 災 件 数 器	全 火 災 に 対 す る 割 合 （ ％ ）	火 災 種 別							損 害 状 況				
				建 物					船	そ の 他	焼 損 床 （ ㎡ ） 積	焼 損 表 （ ㎡ ） 積	損 害 （ 千 円 ） 額	死 者	負 傷 者
				小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や							
23年	5,340	647	12.1	631	10	12	95	514	-	16	2,038	986	451,650	5	263
24年	5,088	646	12.7	634	6	18	101	509	-	12	1,746	1,006	428,610	12	232
25年	5,190	631	12.2	620	11	7	93	509	-	11	1,719	737	293,474	7	231
26年	4,804	623	13.0	611	8	9	76	518	-	12	2,309	1,322	466,355	5	224
27年	4,430	694	15.7	681	8	11	101	561	-	13	2,102	1,352	363,408	9	252
28年	3,980	588	14.8	580	5	10	70	495	-	8	1,563	1,393	1,048,672	9	276
29年	4,204	560	13.3	549	6	9	82	452	-	11	2,119	824	719,562	7	194
30年	3,972	508	12.8	489	5	4	72	408	-	19	1,129	833	246,254	4	185
元年	4,085	582	14.2	569	5	6	74	484	1	12	1,403	830	326,554	3	202
2年	3,693	571	15.5	560	2	8	69	481	-	11	952	673	270,102	5	218

注 全火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

- 令和2年中の火災件数は571件で前年と比べて11件減少し、500件台で推移。
- 建物火災の焼損程度をみると、令和2年中の全焼火災件数が最近10年間で最も少ない。

(2) 主な出火原因

主なガス設備機器別の発火源と経過をみたものが表 3-7-2 です。

表 3-7-2 ガス設備機器の発火源と経過

発火源		合 計	放 置 す る ・ 忘 れ る	可 燃 物 が 接 触 す る	接 炎 す る	引 火 す る	過 熱 す る	誤 っ て ス イ ッ チ が 入 る (入 れ る)	考 え 違 い に よ り 使 用 を 誤 る	火 花 が 飛 ぶ	可 燃 物 が 沸 騰 す る ・ あ ふ れ 出 る	伝 導 過 熱 す る	可 燃 物 が 落 下 す る	火 の つ い た 油 等 が 吸 い こ ま れ る	そ の 他	不 明
合 計		571	231	70	61	55	48	24	20	8	8	7	7	4	23	5
厨房 関 連	小 計	550	231	69	55	50	48	24	20	-	8	7	7	4	22	5
	ガ ス テ ー ブ ル	298	115	51	30	32	17	19	15	-	3	2	6	-	6	2
	大 型 ガ ス こ ん ろ	72	50	4	3	4	6	-	-	-	-	3	-	-	1	1
	ガ ス こ ん ろ	54	21	7	8	1	10	1	-	-	2	-	1	-	3	-
	簡 易 型 ガ ス こ ん ろ	35	13	2	6	6	2	-	2	-	3	-	-	-	1	-
	大 型 レ ン ジ	34	26	-	1	-	5	-	-	-	-	1	-	-	1	-
	ガ ス レ ン ジ	11	5	2	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
	ガ ス オ ー ブ ン	8	-	1	1	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-	1
	給 湯 器	7	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-
	フ ラ イ ヤ	5	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-
	無 煙 ガ ス ロ ー ス タ	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
	瞬 間 湯 沸 器	4	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	ガ ス 鉄 板 焼 器	4	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	そ の 他 の 厨 房 関 連	14	1	1	3	3	2	-	-	-	-	1	-	-	3	-
家事・ 季節 関連	小 計	8	-	1	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	ガ ス フ ァ ン ヒ ー タ	4	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ガ ス 衣 類 乾 燥 機	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ガ ス 冷 暖 房 機	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	ガ ス ス ト ー ブ	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
工業 関連	小 計	13	-	-	4	1	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
	ガ ス 切 断 機	10	-	-	3	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
	ガ ス ハ ン ド ト ー チ	2	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	ガ ス バ ー ナ	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

- 厨房関連設備機器の火災は 550 件発生し、ガス設備機器の 96.3%を占め、その上位 6 位までがこんろ部やグリル部を有する厨房設備や調理器具で発生。
- 厨房関連設備機器の経過で最も多いのは、「放置する・忘れる」の 231 件（42.0%）で 4 割以上を占める。
- 家事・季節関連機器の火災は 8 件（1.4%）発生し、ガスファンヒータが 4 件（50.0%）で 5 割を占める。
- 工業関連設備機器の火災は 13 件（2.3%）発生。

(3) 出火要因別発生状況

出火要因別発生状況をみたものが表 3-7-3 です。

表 3-7-3 ガス設備機器の出火要因

発火源		合	火気 の取扱 不適	取扱 方法不 良	可燃物 の取扱 不適	維持管 理不適	取扱 位置不 適	設置（ 取付） 方法不 良	設置（ 取付） 不適	その他	不明
合 計		571	234	134	74	51	35	7	7	24	5
厨房 関連 連	小 計	550	234	126	73	48	31	3	7	23	5
	ガス テーブル	298	113	81	53	18	14	1	3	13	2
	大型 ガス こんろ	72	38	15	5	5	2	1	1	4	1
	ガス こんろ	54	30	7	4	3	8	-	1	1	-
	簡易型 ガス こんろ	35	18	9	5	-	3	-	-	-	-
	大型 レンジ	34	26	4	-	3	-	-	1	-	-
	ガス レンジ	11	6	2	2	1	-	-	-	-	-
	ガス オーブン	8	2	2	-	2	-	-	-	1	1
	給湯器	7	-	-	1	1	1	-	1	3	-
	フライヤ	5	1	-	-	4	-	-	-	-	-
	瞬間湯沸器	4	-	1	1	-	2	-	-	-	-
	ガス 鉄板焼器	4	-	-	-	3	-	-	-	-	1
	無煙 ガス ロースタ	4	-	-	-	4	-	-	-	-	-
	その他の厨房関連	14	-	5	2	4	1	1	-	1	-
家事・季節関連	小 計	8	-	1	1	2	4	-	-	-	-
	ガス ファンヒータ	4	-	-	1	-	3	-	-	-	-
	ガス 衣類乾燥機	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-
	ガス 冷暖房機	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-
工業関連	ガス ストーブ	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	小 計	13	-	7	-	1	-	4	-	1	-
	ガス 切断機	10	-	5	-	1	-	4	-	-	-
	ガス ハンドトーチ	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-
	ガス パーナ	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-

ア 火気取扱不適

- 「火気取扱不適」の火災は 234 件（41.0％）発生し、全体の 4 割以上を占め、厨房関連の発火源のみ発生。
- 発火源別にみると、ガステーブルが 113 件（48.3％）で約半数を占め、次いで大型ガスこんろが 38 件（16.2％）、ガスこんろが 30 件（12.8％）となっている。

イ 取扱方法不良

- 「取扱方法不良」の火災は134件（23.5%）発生し、全体の2割以上を占める。
- 発火源別にみると、厨房関連が126件（94.0%）、家事・季節関連が1件（0.7%）、工業関連が7件（5.2%）発生し、9割以上を厨房関連が占める。

ウ 可燃物の取扱不適

- 「可燃物の取扱不適」の火災は74件（13.0%）発生し、全体の1割以上を占める。
- 発火源別にみると、厨房関連が73件（98.6%）、家事・季節関連が1件（1.4%）発生し、9割以上を厨房関連が占める。

エ 維持管理不適

- 「維持管理不適」の火災は51件（8.9%）発生。
- 発火源別にみると、ガステーブルが18件（35.3%）と最も多く、次いで大型ガスこんろが5件（9.8%）発生。

オ 取扱位置不適

- 「取扱位置不適」の火災は35件（6.1%）発生。
- 発火源別にみると、ガステーブルが14件（40.0%）と最も多く、次いでガスこんろが8件（22.9%）発生。

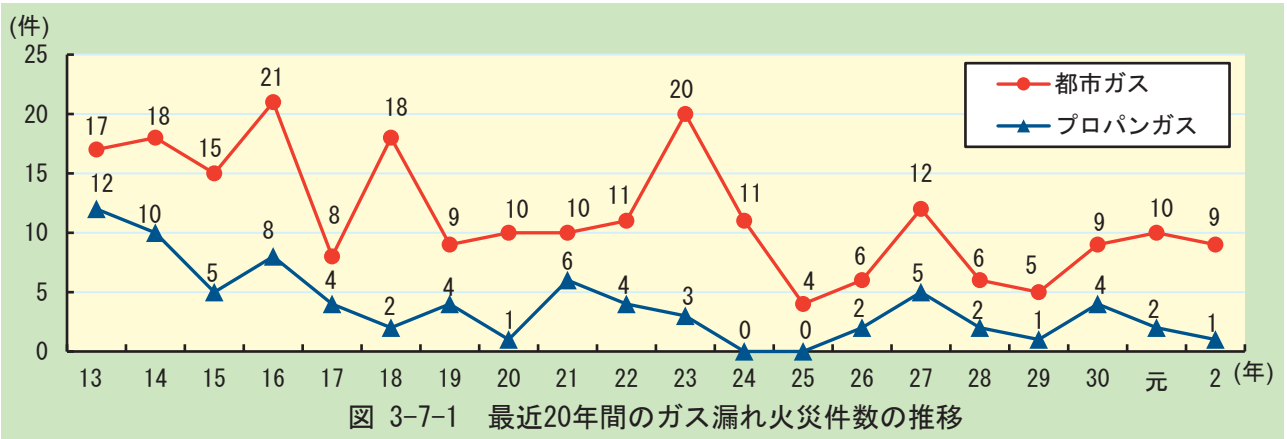
(4) ガス漏れ火災

ア 年別火災状況

最近10年間のガス漏れ火災年別状況をみたものが表3-7-4、最近20年間のガス漏れ火災件数の推移をみたものが図3-7-1です。

表 3-7-4 ガス漏れ火災年別状況

ガス 種 別	年 別	合 計	建物					そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 (千円) 額	死 者	負 傷 者
			小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や						
都市ガス	23年	20	19	-	-	2	17	1	16	215	26,114	-	11
	24年	11	11	-	-	2	9	-	-	34	2,255	-	4
	25年	4	4	-	-	-	4	-	-	-	4	-	1
	26年	6	6	-	-	-	6	-	-	-	10	-	-
	27年	12	12	-	-	1	11	-	-	1	55	-	1
	28年	6	6	-	-	-	6	-	-	-	8	-	1
	29年	5	5	-	-	-	5	-	-	-	29	-	-
	30年	9	8	-	-	-	8	1	-	-	73	-	1
	元年	10	8	-	-	1	9	-	30	25	6,543	-	4
	2年	9	9	-	-	1	8	-	2	1	424	-	2
プロパンガス	23年	3	3	1	-	1	1	-	150	1	36,431	-	3
	24年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	25年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	26年	2	1	-	-	-	1	1	-	-	5	-	-
	27年	5	4	-	-	1	3	1	-	4	182	-	2
	28年	2	-	-	-	-	-	2	-	-	1	-	5
	29年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	30年	4	-	-	-	-	-	4	-	-	11	-	1
	元年	2	1	-	-	-	1	1	-	-	2,387	-	-
	2年	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-



イ 要因別の状況

令和2年中のガス漏れ火災のガス漏れ要因をみたものが表3-7-5です。

表 3-7-5 ガス漏れ要因の状況

ガス 種 別	発 火 源	ガス 漏 れ 器 具	合 計	差 込 み 不 良	キ ャ ッ プ 老 化 き 裂	ゴ ム 管 の 切 断	二 口 コ ツ ク 誤 操 作	ゴ ム 管 の 接 続 不 良	分 岐 金 具 結 合 不 良	ゴ ム 管 老 化 き 裂	ガ ス コ ツ ク 故 障	そ の 他
合		計	10	1	1	1	1	1	1	1	1	2
都	小	計	9	1	1	1	1	1	1	-	1	2
市	ガ ス テ ー ブ ル	本 体	4	-	1	-	-	1	1	-	-	1
ガ		ゴ ム 管	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
ス		ガ ス コ ツ ク	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	大 型 ガ ス こ ん ろ	本 体	2	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	ガ ス こ ん ろ	ゴ ム 管	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ガ ブ ロ パ ン	小	計	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	ガ ス テ ー ブ ル	本 体	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-

- ガス漏れ火災は10件で、前年と比べて2件減少。
- 都市ガス及びプロパンガスのガス漏れ火災は増減を繰り返し、長期的にみると減少傾向で推移。

8 石油設備機器

- 最近10年間で石油設備機器による火災件数は最も少なくなっています。
- 死者の発生はなく、負傷者は前年比8人増加しました。

抽出条件：①発火源分類コード 中分類コード「23油を燃料とする道具装置」
②経過分類コード 「911放火」、「912無意識放火」、「921放火の疑い」、「931火遊び」を除く。
③車両から出火した火災の区分コード 「0非該当」

(1) 火災状況

ここでとりあげる「石油設備機器」の火災とは、石油を燃料とする設備機器が発火源となった火災をいいます。

ア 年別火災状況

最近10年間の年別火災状況をみたものが表 3-8-1 です。

表 3-8-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別	全 火 災 件 数	火 石 油 設 備 機 器 件 数	全 火 災 件 数 に 対 す る 割 合 (%)	火 災 種 別								損 害 状 況				
				建 物					航 空 機	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 (㎡)	焼 損 表 面 積 (㎡)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
				小 計	全 焼	半 焼	部 焼 分	ぼ や								
23 年	5,340	47	0.9	40	4	4	9	23	-	-	7	735	1,199	146,227	2	25
24 年	5,088	44	0.9	40	3	1	5	31	-	-	4	530	119	42,716	1	25
25 年	5,190	54	1.0	46	10	1	10	25	1	-	7	1,051	264	106,019	2	30
26 年	4,804	35	0.7	29	2	1	6	20	-	-	6	385	46	81,791	1	25
27 年	4,430	36	0.8	31	3	2	3	23	-	-	5	294	31	26,423	-	24
28 年	3,980	32	0.8	28	2	2	6	18	1	-	3	338	51	961,883	-	36
29 年	4,204	40	1.0	36	4	-	11	21	-	-	4	864	282	92,131	-	33
30 年	3,972	38	1.0	33	3	6	4	20	-	-	5	660	119	112,714	1	21
元 年	4,085	34	0.8	33	4	1	5	21	-	-	3	729	144	110,040	3	13
2 年	3,693	27	0.7	18	1	1	4	12	-	-	9	211	133	46,567	-	21

注 全火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

- 火災種別をみると、建物火災が18件（66.7%）で、延焼拡大率（建物火災件数に占める部分焼以上の火災の割合）は33.3%を占める。前年に比べて3.0ポイント増加。

イ 機器別火災状況

石油設備機器のうち、機器別による火災件数の推移をみたものが図 3-8-1 です。

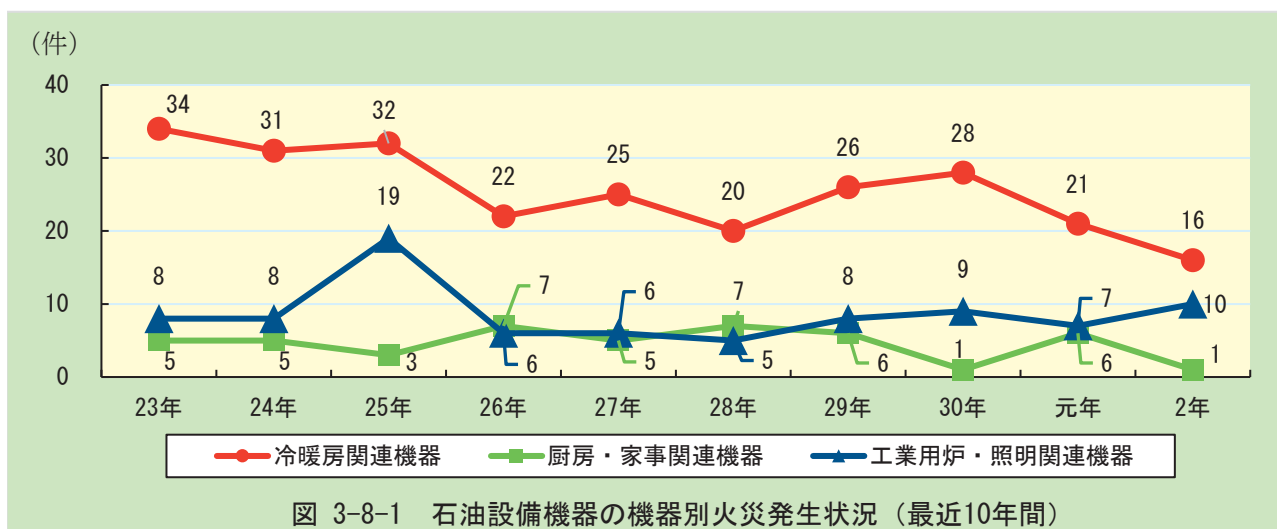


図 3-8-1 石油設備機器の機器別火災発生状況（最近10年間）

注 放火、火遊び及び車両から出火した火災を除いています。

ウ 燃料別設備機器火災状況

最近10年間の電気、ガス及び石油設備機器別の火災件数を比較したものが図 3-8-2 です。

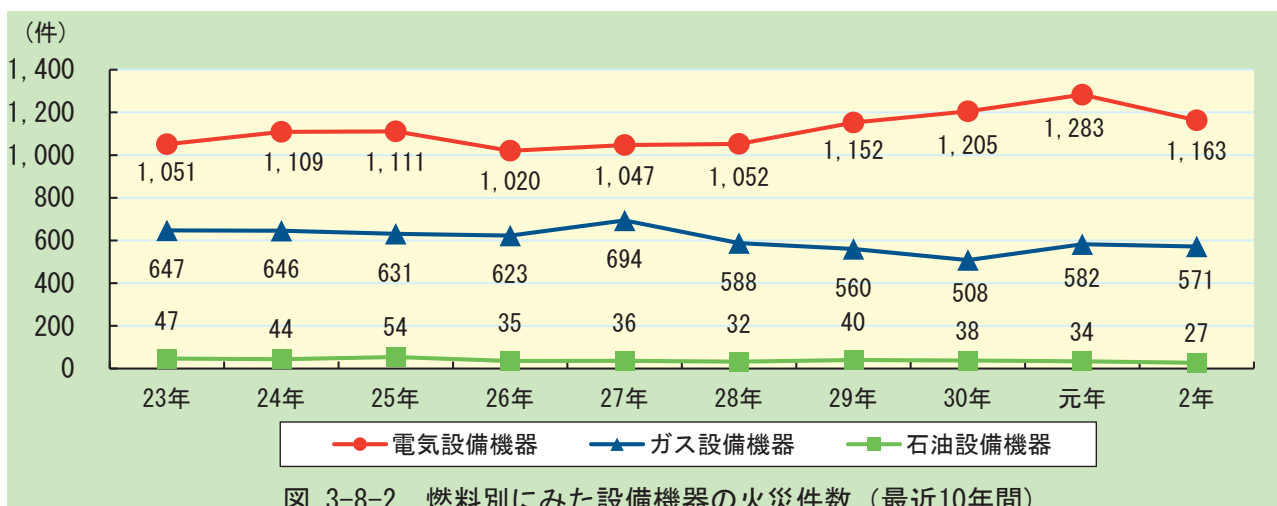


図 3-8-2 燃料別にみた設備機器の火災件数（最近10年間）

注 放火、火遊び及び車両から出火した火災を除いています。

- 機器別火災状況をみると、冷暖房関連機器が16件で、最近10年間で最も少ない。
- 燃料別設備機器別の火災件数をみると、前年と比べて石油設備機器は7件減少、電気設備機器は120件減少、ガス設備機器は11件減少。

(2) 主な出火原因及び出火要因別発生状況

石油設備機器の火災とその発生経過をみたものが表 3-8-2、出火要因別火災状況をみたものが図 3-8-3 です。

表 3-8-2 石油設備機器別の出火に至った経過

発火源		合計	引火する	可燃物が接触する	可燃物を置く	使用を誤る	考え違いにより	地絡する	接炎する	可燃物が沸騰する・あふれ出る	逆火する	可燃物が落下する	使用中給油する	電線が短絡する	過熱する	着火物が漏洩する	火源が落下する	改悪する	不明
合計		27	7	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
関連機器	小計	16	4	3	3	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	1	2
	石油ストーブ	12	2	2	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1	2
	石油ファンヒータ	4	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
関連機器・照明	小計	10	2	-	-	1	1	1	1	1	-	1	-	-	1	-	1	-	-
	エンジンカッター	3	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	発電機	2	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内燃機関	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	アスファルト溶解炉	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	石油ランプ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
関連機器・家事	小計	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	アルコールこんろ	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

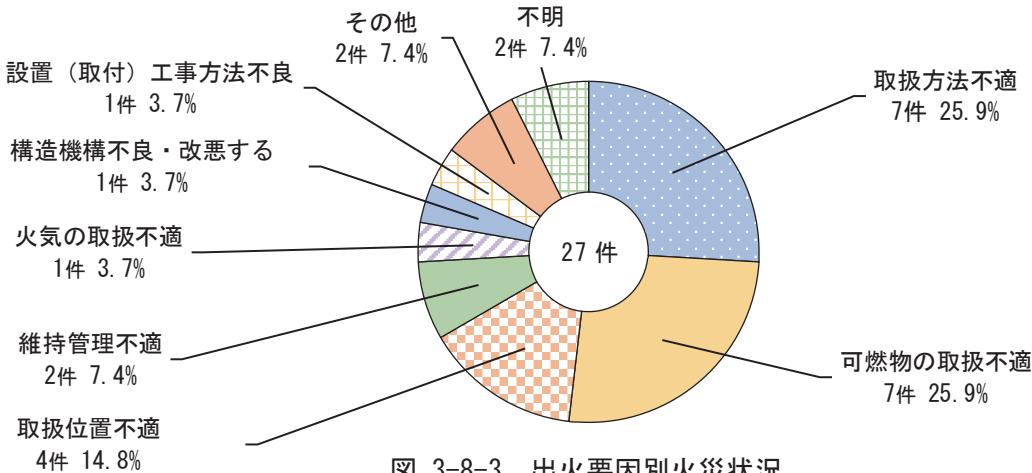


図 3-8-3 出火要因別火災状況

- 石油ストーブの火災は12件（44.4%）で前年と比べ6件減少しているが、石油設備機器の火災の4割以上を占める。
- 出火要因別でみると「取扱方法不良」及び「可燃物の取扱不適」が各7件（25.9%）発生し、二つで石油設備機器の5割以上を占める。

9 その他の出火原因

- 花火による火災は6件で、すべて玩具用花火で発生しています。
- 前年と比較すると、収れんによるのみが増加しています。

ここでは、前述した出火原因以外で、火災件数の比較的多いものや、特異な出火原因についてみていきます。

その他の出火原因の火災状況をみたものが表 3-9-1 です。

表 3-9-1 その他の出火原因の火災状況

出火原因	火災の種類別								損害状況				
	合計	建築物					林野	その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面积 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや							
花火	6	2	-	-	-	2	1	3	-	-	5	-	2
雷	4	2	-	-	-	2	-	2	-	-	38	-	-
再燃	9	4	-	-	3	1	-	5	5	2	1,247	-	1
収れん	10	8	-	-	1	7	-	2	-	3	4,393	-	1

(1) 花火

抽出条件：①発火源分類コード 「71201煙火」、「71202花火」
 ②経過分類コード 「911放火」、「912無意識放火」、「921放火の疑い」、「931火遊び」を除く。

ここでとりあげる「花火」とは、発火源が煙火（専門花火）及び玩具花火の両方の火災をいいます。

- 火災件数は6件で、前年と比べて2件減少。
- 月別発生状況をみると、8月に4件、5月、12月に各1件発生。

(2) 雷

抽出条件：経過分類コード 「841落雷する」

- 火災件数は4件で、前年と比べて6件減少。
- 直接雷*によるものが1件（25.0%）、間接雷*によるものが3件（75.0%）発生。
- 月別発生状況をみると、5月、9月に各2件発生。

(3) 再燃

抽出条件：経過分類コード 「321消したはずのものが再燃する」

ここでとりあげる「再燃」とは、行為者が火災に対して消火行為を行い、消火できたと思われたものの、火種が残っていたため数時間後に再び燃え出して火災となったものをいいます。再燃前の火災の消火方法と再燃物品をみたものが表 3-9-2 です。

表 3-9-2 再燃前の消火方法と再燃物品

再燃前の火災の消火方法	合計	再燃物品	
		寝具類	消したはずの木材・廃材
合計	9	8	1
コップ・湯のみ等の水をかけた	3	3	-
直接水道の水をかけた	1	-	1
やかん、ポット等の水をかけた	1	1	-
鍋、ボール等の水をかけた	1	1	-
その他（もみ消し・叩き消した等）	2	2	-
不明	1	1	-

- 火災件数は9件で、前年と比べて1件減少。
- 再燃前の火災の発火源をみると、たばこによるものが3件（33.3%）と最も多く発生。
- 再燃物品は、寝具類が8件（88.9%）で8割以上を占める。

(4) 収れん

抽出条件：経過分類コード 「991収れんする」

収れんとは、太陽からの光が何らかの物体により反射又は屈折し、これが1点に集まることをいいます。反射又は屈折により太陽光が1点に集中した場所に可燃物があると、火災となる場合があります。

- 火災件数は10件で、前年と比べて3件増加。
- 発火源をみると、凹面鏡が5件、凸レンズが4件、反射板が1件となっている。